令和６年度
第６０回　新潟県小中学校教頭会研究大会
第１５回　下越Ｂブロック研究大会

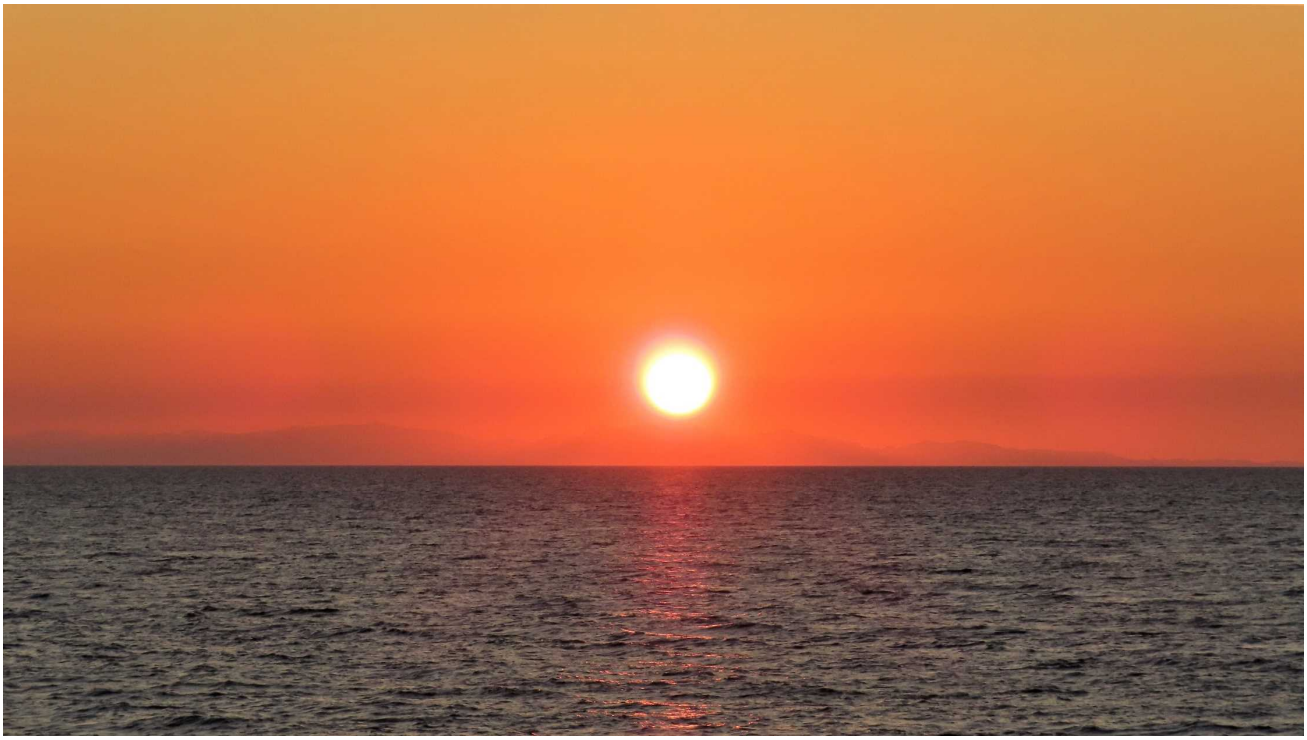
村上・岩船大会

『未来を切り拓く力を育む　魅力ある学校づくり』

（キーワード　自立・協働・創造）

～夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり～

２年次研究



13:40　14:00　14:15　15:55　16:10

入室	開会式	分　科　会 〈　提案・質疑・ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議・指導　〉	各分科会にて閉会式

令和６年１０月３０日（水）

新潟県小中学校教頭会

目 次

大会要項 ・・・ 2

新潟県小中学校教頭会会長あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第６０回新潟県小中学校教頭会研究大会の目指すもの ・・・・・・ 5

分科会構成 ・・ 9

メモ ・・ 10

第１分科会提案 ・・・ 11

第２分科会提案 ・・・ 13

第３分科会提案 ・・・ 15

第１分科会構成者名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

第２分科会構成者名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

第３分科会構成者名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

大会役員一覧 ・・・ 20

第６０回　新潟県小中学校教頭会研究大会

第１５回　下越Ｂブロック研究大会

【大会要項】

１　研究主題　『未来を切り拓く力を育む　魅力ある学校づくり』

（キーワード　自立・協働・創造）

～夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり～

２年次研究

２　主　　催　新潟県小中学校教頭会

３　後　　援　新潟県教育委員会　新潟県小学校長会
新潟県中学校長会　村上市教育委員会
関川村教育委員会　粟島浦村教育委員会
村上市岩船郡校長会

４　主　　管　村上市岩船郡小中学校教頭会

５　期　　日　令和６年１０月３０日（水）

６　研修形態　Zoom によるオンライン研修

配信会場：マナボーテ村上

７　日　　程

※ミーティングルーム入室　　１３：４０～１４：００

開会式　　１４：００～１４：１５

開会のことば		
開会のあいさつ	新潟県小中学校教頭会長	山下　信孝
指導者紹介	大会実行委員長	中山　久司
閉会のことば		

分科会（３分科会）　　１４：１５～１５：５５

あいさつ・進め方説明	（ 5 分）
提案発表	（20 分）
質疑応答	（10 分）
グループ討議	（25 分）
※ブレイクアウトルームでのグループ討議	
～休憩（10 分）～	
代表グループからの報告	（10 分）
ご指導	（20 分）

閉会式（分科会ごと）　　１５：５５～１６：１０

開会のことば
大会宣言
閉会のことば

大会終了後、アンケートにご協力ください（２分程度）。
下の QR コードを読み取っていただきますと回答できます。

R6県教頭会

あ　い　さ　つ

新潟県小中学校教頭会会長
山下　信孝

第６０回新潟県小中学校教頭会研究大会、第１５回ブロック大会の開催にあたり、新潟県小中学校教頭会を代表いたしまして、挨拶を申し上げます。

本研究大会は、全国公立学校教頭会第１３期統一研究主題「未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり（キーワード：自立・協働・創造）」を受け、新潟県の今日的課題を踏まえたサブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を切り拓く子どもを育む学校づくり（２年次）」の達成に向けて推進してきたことについて、会員同士がキーワードにもある自立・協働・創造を意識しながら追求していく場となります。その際、「研究の連続性」「組織研究としての協働性」「学校運営における教頭の関与性」について教育実践を語り合い、成果と課題を共有することにより、教頭としての資質を高める時間になることを目指しています。

令和５年度に文部科学省より発出された第４期教育振興基本計画において「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が示されました。今後日本が目指すべき社会や個人の在り方として重要な考え方となります。学校においても同様です。学校づくりにおいてのウェルビーイングとは、子どものウェルビーイングであり教師のウェルビーイングでもあります。子どもや教師が心身共に健康で、社会的にも良好で、満たされているからこそ、「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を切り拓く子どもを育む学校づくり」に向かっていけます。

現在の勤務校では、昨年度１５０周年の周年行事が行われました。学校制度が始まってから約１５０年、「全員が同じことを、同じ方法で、同じペースで学習する」スタイルが脈々と受け継がれてきました。誰もがウェルビーイングとなる学校づくりをしていくためには、そこから脱却していかなければいけません。すなわち「主体的・対話的で深い学び」を実現させるため「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが必要です。そのためには、私たち教頭が先頭に立って学ぶ姿勢を示すことが大事だと考えます。本研修会等での学びを各校に持ち帰り、日々実践していくことで、先生方に模範を示したいものです。

最後になりますが、本研究大会を開催するにあたり、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新潟県小学校長会、新潟県中学校長会をはじめ、関係諸機関・諸団体からご後援・ご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げ、挨拶といたします。

第 60 回新潟県小中学校教頭会研究大会の目指すもの

新潟県小中学校教頭会研究部

1　第 60 回新潟県小中学校教頭会研究大会研究主題について

(1) 研究主題

「未来を切り拓く力を育む　魅力ある学校づくり」

（キーワード：自立・協働・創造）　＜第 13 期全国統一研究主題＞

(2) 研究主題設定の意義

令和の新しい時代がスタートして６年。人工知能の進化、高度情報化社会の到来と、生活の質的変化が急激に進んでいる。また、新型コロナウイルス感染症禍を経て、新しい生活様式への対応も進んでいる。一方、人口減少・高齢化、子どもの貧困問題、地域間格差等の社会的課題に加え、教職員の多忙化等、難しい課題が山積している。

こうした社会状況において、豊かな人生を生きるために子どもたちに求められることは、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新しいものを生み出し、課題の解決や改善に粘り強く取り組んでいく力を付けていくことであり、教育の果たす役割は重大である。そして、教育の現場にいる私たちは、日本国憲法や教育基本法の理念に基づき、子どもたち一人一人に、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を確実に育む学校教育を実現していくことが大きな使命である。

私たちは、このような背景を踏まえ、「社会や地域に開かれた教育課程」を展開し、時代の進展・変化に的確に対応する「生きる力」とともに、困難な中でもよりよい社会や幸せな人生を積極的に築き上げていく「未来を切り拓く力」を子どもたちに育み、たくましく生きていく人間の育成に貢献しなければならない。

併せて、昨今、教職員の人材確保が大きな課題となっていることから、未来を担う子どもたちを育てる仕事の責務と魅力が十分に感じられ、子どもたちにとっても、教職員にとっても「魅力ある学校づくり」を具現化していく必要がある。

2023 年は、全国公立学校教頭会（全公教）の第 13 期統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」のもと、サブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を設定して、第 59 回新潟県小中学校教頭会研究大会・第 14 回ブロック別研究大会をオンライン形式で開催し、第１年次の研究を進めてきた。そして、これまで諸先輩方が築き上げてきた「研究の継続性による成果と課題の焦点化」「研究の協働性の充実」「教頭の関与性の明確化」の更なる充実を目指し、会員の参加意識を高め、研究の成果や課題が会員一人一人に共有され、課題解決に寄与できるように努めてきた。

2024 年度は、全国公立学校教頭会（全公教）の第 13 期統一研究主題を受けた研究の第２年次となる。サブテーマも１年次と同様に設定し、先に述べた「研究の継続性」と「協働性」、「教頭の関与性」を明らかにした教育実践を持ち寄り、その実践の有効性や妥当性などを検証するとともに、互いの実践や意見交換から学ぶことを通して、会員一人一人が学校運営の力量を高め、新潟県教育の発展に貢献することを目指す。

２　サブテーマについて

⑴サブテーマ

「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」（２年次研究）

⑵サブテーマ設定の趣旨

第３期教育振興基本計画の「Ⅲ．2030 年以降の社会を展望した教育政策の重点事項」では、個人の目指すべき姿として、「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成」が掲げられている。主体的に学ぼう、主体的に社会と関わろうとする意欲の源は、「こうなりたい」「こうしたい」という夢や希望である。また、直面する問題を解決するためには、多様な人と関わり協働していく力や、困難に対し自ら乗り越え粘り強く取り組んでいく力が必要である。

第 13 期の研究では、自立・協働・創造の三つの方向性を継承し、子どもたち一人一人が自分の未来に対して主体性をもち、実現に向けて協働的に取り組む力を育む学校づくりに焦点を当てて教育実践を重ねていく。その中核となる教頭の在り方を追究するため、サブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を設定した。

「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子ども」とは、次のような資質や能力を備えた子どもである。

①多様な個性・能力を伸ばし、自ら可能性に挑戦することができる子ども
　　⇒　「自立」する子ども
②個人や社会の多様性を尊重し、共に支え合い、高め合うことができる子ども
　　⇒　「協働」する子ども
③自立・協働を通じて新たな価値を創造していくことのできる子ども
　　⇒　「創造」する子ども

これからの激動の社会を生き抜く子どもたちには、自ら考え、学校内外の多様な人々と協働しながら主体的に課題を解決し、新たな価値を創造する力が求められている。このような力を育むために、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、学校・家庭・地域の連携をさらに深め、協働型・双方向型の学びを進めていくことが必要である。

また、学校内外の様々な知恵・資源を積極的に取り入れていくことにより、学校を子どもの教育の場であると同時に、多様な人が集まり協働し創造する学びの拠点として深化させていくことが期待されている。

「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子ども」を育むためには、副校長・教頭が中核となり、学校運営を充実させていくことが重要となってくる。新潟県小中学校教頭会は、組織的・協働的に、教頭の在り方を鋭角的にかつ多面的に追究し、新潟県の教育の振興に寄与していく。

⑶ 研究課題と実践の視点

サブテーマ**「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」**の追究のために、５つの課題を設定した。私たちの研究は、新潟県・新潟市の課題をしっかり受け止めるとともに、自校の抱えている課題を把握し、その解決を図ることが目的である。課題を解明する実践においては、教頭の職務内容に焦点付けた視点が必要である。そこで、全公教の内容例・視点例を参考にして、５つの課題と新潟県小中学校教頭会としての実践の視点を設定した。

（実践の視点はあくまでも例示であり、各単位教頭会において追究していく内容を絞り込んで実の上がる研究を推進する。）

【第１課題；教育課程に関する課題】

〇信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価に関すること（カリキュラム・マネジメント）
〇教育理念と学校経営に関すること
〇教育目標の設定と具現化に関すること
〇教育課程の実施と学習評価に関すること（GIGA スクール構想の推進等）
〇幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携に関すること
〇家庭や地域との連携及び協働に関すること

【第２課題；子どもの発達に関する課題】

〇確かな学力の確実な定着に関わること
〇児童生徒の豊かな人間性の育成に関わること
〇児童生徒の健康・体力の増進に関わること
〇生き抜く力やこれから求められる資質・能力の育成に関わること
〇子どもの発達を支える教育課題に関わること

【第３課題；教育環境整備に関する課題】

〇児童生徒の安全安心に関すること
〇学校の施設設備に関すること
〇学校、家庭、地域との連携と協働に関すること
〇学校規模適正化に関すること
〇文書事務、経理事務の管理に関すること
〇教育の情報化に関すること（ICT の環境整備等）

【第４課題；組織・運営に関する課題】

〇学校運営全般に関すること
〇人材育成や組織力の向上に関すること
〇危機管理や情報管理に関すること
〇地域連携（コミュニティ・スクール等）に関すること
〇異校種連携に関すること

【第５課題；教職員の専門性に関する課題】

〇教職員の専門家としての意識高揚に関すること
〇教職員の指導力等の育成に関すること
〇教職員の研修に関すること
〇教職員の服務、コンプライアンス意識に関すること
〇小中一貫教育を通した、教職員の課題意識の向上に関すること
〇教職員の協働体制の構築に関すること
〇教職員の学校運営参画意識の向上に関すること

３　研究の基本方針

全国公立学校教頭会の研究の基本方針を踏まえ、新潟県小中学校教頭会として次の３点に焦点を当てた実践的研究を進める。＜３つの **C**＞

(1)客観的で継続性のある研究を進める……**continuity**
(2)組織的で協働性のある研究を進める……**collaboration**
(3)教頭としての関与性を明確にした研究を推進する……**commitment**

今年度も、郡市教頭会ごとに研究の協働性を高めるとともに、 **①研究テーマは何か　②研究テーマに正対する結論は何か　③結論を支える具体的な事実は何か**の整合性を高めた論述をし、会員一人一人に研究の成果が共有されるように配慮していく。

研究大会の効果を評価する４つのレベルというものがある。（出典：アメリカの経営学者カークパトリック博士が 1959 年に提案した教育の評価法のモデルより）

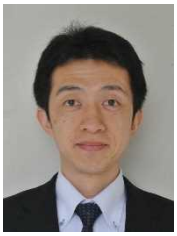
〇レベル１　研究大会に参加したことに満足する
〇レベル２　学んだことで新たな知識や技能を習得する
〇レベル３　実際の教育現場での行動変容、向上的な行動変容が見られる
〇レベル４　学校組織全体の業績や成果が上がる

今回の研究大会は、昨年度に引き続いてのブロック別研究大会である。会員一人一人の学びのレベルは違ってくるであろうが、大会要項の精読・協議の柱の確認などを行い「研究成果を会員一人一人の勤務校や郡市に持ち帰ること」と「本研究大会の成果と課題を明確にすること」を目指していく。

第６０回　新潟県小中学校教頭会研究大会
第１５回　下越Ｂブロック研究大会　分科会構成

分科会番号	1	2	3
課題番号	2	3（1）	4
研究課題	子どもの発達に関する課題	施設・設備及び事務に関する課題	組織・運営に関する課題
テ ー マ	児童生徒の自己有用感の向上 ～地域のよさに触れ、地域に働きかける活動を通して～	学校における 安全管理に関わる取組	ふるさと阿賀野市への誇りや愛着をもつ児童生徒を育む地域連携のあり方 ～持続可能な地域連携を目指す組織づくりにおける教頭の役割～
指 導 者	下越教育事務所 学校支援第２課指導主事 小池　満喜子　様	村上市教育委員会 学校教育課管理主事 仙田　　満　様	下越教育事務所 学校支援第２課指導主事 鈴木　淳　様
担　当 教頭会	胎　内　市 小中学校教頭会	村 上 市 岩 船 郡 小中学校教頭会	阿 賀 野 市 小中学校教頭会
提 言 者	胎内市立乙中学校 畑山　倫和	村上市立神納小学校 貝沼　史弘	阿賀野市立堀越小学校 平井　　涼
支 援 者 共同研究者	胎内市立築地中学校 倉町　宏治	村上市立保内小学校 小野　浩由	阿賀野市立笹神中学校 恩田　徹也
司 会 者	村上市立さんぽく小学校 伊藤　孝希	村上市立村上第一中学校 田島　隆之	県立村上中等教育学校 青山　　亮
記 録 者	村上市立山北中学校 村田　　健	県立村上特別支援学校 田中　雅広	村上市立荒川中学校 山本　　亘
参加人数	２７人	２７人	２７人
ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ ID パスコード	230 310 7504 509386	458 033 7503 235711	843 386 5976 526169

メ　モ



児童生徒の自己有用感の向上

～地域のよさに触れ、地域に働きかける活動を通して～

胎内市小中学校教頭会　胎内市立乙中学校　畑山　倫和

１　課題

胎内市小中学校の児童生徒は、その多くが地域を愛する心をもち、地域の課題を自分事として捉えている。この児童生徒が、地域のよさに触れ、地域のために考え行動し、地域の人から感謝されることは自己有用感の高まりにつながると考える。しかし、令和元年度の全国学力・学習状況調査の質問紙の回答結果では、以下のとおり自己有用感が高いとは言い難い現状が見られた。

質問１　自分にはよいところがある（当てはまると答えた割合）
胎内市小学校 39.7%、全国平均 38.8%【全国平均比＋0.9%】
胎内市中学校 28.6%、全国平均 29.0%【全国平均比－0.4%】
質問２　地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある（当てはまると答えた割合）
胎内市小学校 32.9%、全国平均 18.9%【全国平均比＋14.0%】
胎内市中学校 14.6%、全国平均 11.5%【全国平均比＋3.1%】

胎内市の全小中学校は、令和２年度よりコミュニティ・スクールとなった。胎内市小中学校教頭会（以下、教頭会と略す）では、このことを活用し、学校を含む地域全体で児童生徒の自己有用感を高めることができるよう、胎内市教育委員会（以下、市教委と略す）と連携して研修を行い、取組を進めている。

２　課題解決のための取組（令和３年度以降）

⑴　教頭会での研修

教頭会では、児童生徒の自己有用感を高める教育活動を学校が組織的、計画的に行うには、教頭が核となる必要があると考え、市教委と連携し、定例会の中で研修を重ねた。

令和３年度から、総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム・マネジメントについての研修を行っており、この中で、市教委の指導主事から指導を受け、「教育課程に位置付ける」「教育活動を価値付ける」をキーワードに、各校の目指す児童生徒像や教育課程の見直しを行い、教育活動の工夫を図っている。

【教育課程に位置付ける】
◆　昔遊び　→　生活科　クラブ活動
◆　あいさつ運動　→　道徳科、特別活動
◆　様々な地域活動 → 総合的な学習の時間

【教育活動を価値付ける】
◆　スキー授業　←　クラウドファンディング、市民の思い
◆　避難訓練　←　区長等地域の参観
◆　地域行事　←　地域の歴史　地域の思いや願い

⑵　各校の取組

①　黒川小学校【教育課程に位置付ける】

ア　地域の自然を探究課題とした総合的な学習の時間の実践

第３学年で、胎内の自然の魅力について胎内市観光振興推進サポーターから話を聞いたり、地域おこし協力隊員や地域住民、市商工観光課の協力を得て自然体験活動に取り組んだりした。

児童は地域の魅力を実感し、「胎内の自然を守っていきたい、未来へ残したい」という願いを強くもち、胎内の自然の写真にキャッチコピーや自然保護のメッセージなどを添えたカードを作成し配布することを企画した。児童自ら検討を重ね、地域のスーパーマーケットでカードを直接手渡しで配布した。カードにＱＲコードを掲載し、受け取った人の声を集めた。児童は、自分たちの考えに共感し、肯定的に受け止めてくれた人たちの反応を受け、自分たちが行ったことに大きな満足感と成就感を得て、「自然を未来へ残したい」という願いをさらに膨らませていた。

イ　総合的な学習の時間の方向性についての学校運営協議会の開催

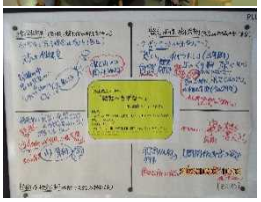
各学年において探究的な学びを進めるため、年度末に総合的な学習の時間の方向性を熟議する学校運営協議会を開催した。地域資源（ひと・もの・こと）に関する情報収集を行い、学校運営協議会委員や地域から学校への願いを聞き取り、共有した。それを受け、総合的な学習の

時間の主任に、各学年のこれまでの学習内容や地域との連携についてまとめるよう指示し、次年度に向けた課題を明確にした。今年度もさらに熟議を重ね協力を得ながら学習を進めている。

② 乙中学校【教育活動を価値付ける】

ア 学校運営協議会における生徒を交えた熟議

教頭と担当職員、地域コーディネーターの提案により、生徒を中心に置いた取組として、年間４回開催する学校運営協議会の際、生徒会の代表生徒を交えた熟議の機会を設定した。



令和５年度は、９月の第２回の際、生徒会総務の生徒が前期の生徒会活動について振り返り、後期の取組について協議した。また 12 月の第３回の際は、次年度に生徒会のリーダーとなる生徒が活動の構想を立てる視点やアイディアを得る機会とした。

協議会委員から、「生徒会スローガンを達成するためのさまざまな取組を自分事として捉えて説明し、今後のことを思い描いていることが分かってよかった」等の言葉をいただき、参加した生徒にとって、自分たちの取組を地域や外部の大人から認め評価してもらうとともに、次の取組に向けての助言をいただく貴重な機会となった。

イ 生徒の気付きや思いを端緒とする地域貢献活動の取組

「じいちゃんが困っている。助けたい。」令和５年度３年生の総合的な学習の時間、地域貢献活動の導入時に、祖父が区長をしている生徒から出されたつぶやきを端緒として、「はまなすの丘」の整備活動を実施した。かつて整備活動を行っていた地域の団体が、世帯数減少や会員の高齢化から約 15 年前に解散されて以来、当該地区の有志で細々と手入れしてきたが、整備し切れず困っていた。教頭が地域連携担当や学年部職員に指導助言し、各担当職員が生徒に働きかけ、生徒の主体的な活動を展開することができた。

中学生の取組が整備活動の一助となり、区長をはじめ参加した地域の方から感謝の言葉をいただいたことで、生徒からは「この場所を少しでも保ち、きれいなはまなすが毎年見られるとよいと思った。乙中生の活動として続けてもらいたい」という感想が得られた。活動が価値付けられたことで、一層生徒の心に響く活動となった。

３ 成果と課題

教頭が核となり、教育活動を組織的、計画的に進め、教育課程に位置付けたり、教育活動を価値付けたりしたことが、児童生徒の自己有用感を高める一助になったと見て取れる。

令和４年度及び５年度の全国学力・学習状況調査の質問紙の２項目においては、以下の結果が見られた（下表の数値は当てはまると回答した割合）。

質　問	令和４年度結果	令和５年度結果
質問１ **自分にはよいところがある**	**小学校　胎内市 35.8%**、全国 39.4% 【全国比-3.6%、元年度比-3.9%】 **中学校　胎内市 43.8%**、全国 36.0% 【全国比+7.8%、元年度比+15.2%】	**小学校　胎内市 41.7%**、全国 42.6% 【全国比-0.9%、元年度比+2.0%】 **中学校　胎内市 33.9%**、全国 37.2% 【全国比-3.3%、元年度比+5.1%】
質問２ **地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある**	**小学校　胎内市 18.7%**、全国 17.6% 【全国比+1.1%、元年度比-14.2%】 **中学校　胎内市 22.7%**、全国 11.1% 【全国比+11.6%、元年度比+8.1%】	**小学校　胎内市 35.2%**、全国 33.2% 【全国比+2.0%、元年度比+2.3%】 **中学校　胎内市 31.7%**、全国 11.9% 【全国比+19.8%、元年度比+17.1%】

令和４年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の最初の２年間の影響を大きく受けた様相が見られ、特に小学校で全国比及び令和元年度比が下回る結果となった。しかし、徐々にさまざまな行動制限が解除され、再び教育活動が柔軟に展開できるようになったことから、各校で、地域の課題に寄り添い児童生徒が主体的に取り組む学習活動を再開、拡大してきた。その結果、令和５年度は、いずれの質問項目においても、取組の成果が表れてきたと考える。ただし、自身のことを直接的に問う質問１については、児童生徒の意識を高めるには時間をかけた継続的な取組が必要である。教頭会として、児童生徒の自己有用感を高める教育課程の評価と改善に引き続き取り組んでいきたい。

○ 皆さんに協議してほしいこと

・地域資源（ひと・もの・こと）を活用し、どのような教育活動を進めているか
・地域資源を活用した教育活動を展開するにあたり、教頭としてどのようにかかわっているか

「学校における安全管理に関わる取組」

村上市岩船郡小中学校教頭会　　村上市立神納小学校　　貝沼　史弘

１　課題

令和２年度に「村上市学校施設長寿命化計画」が策定された。この長寿命化計画では、劣化状況や健全性を考慮して長寿命化判定を行い、建築後50年で改修し80年まで使用することとされている。村上市岩船郡市内には、下表「村上市岩船郡内　築年数」にあるように半数以上の学校が築30年を超えており、市の劣化状況評価でもＣやＤ評価の学校も多い。

【村上市岩船郡内　築年数】

	11～20年	21～30年	31～40年	41～50年	51年以上	合計
小学校	3	4	1	5	2	15
中学校		3	3	1	2	9

老朽化に起因する安全面の不具合による重大な事故を起こさないために、郡市小中学校教頭会では、校地校舎の状況に違いはあっても、どの学校でも取り組んでいる「安全点検」がこれまで以上に重要になると考えた。そして、令和４年度より各校の現状にあった効果的な安全点検について研修を行い、学校施設に求められる環境確保について検討や情報共有を行ってきた。検討の際、多くの学校の課題として職員の危機管理意識について温度差が大きいとの意見が出された。そこで、昨年度は共通課題を「教職員の危機管理意識の向上を目指した効果的な安全点検」とし、管理職だけではなく、教職員全体を巻き込みながら、学校の安全保持や危機管理意識の向上に向け、解決策について研修を重ねてきた。しかし、各校の安全点検の結果は下表のようになっている。

実施頻度	１か月に１回…94%　２か月に１回６%
実施時の人数	管理担当者１名…68%　グループ（ﾛｰﾃｰｼｮﾝ）…13%　学期始めにグループ、他は１名…19%
点検項目	項目あり…67%　項目なし（異状時のみ記載）…33%

実施人数は一人で担当箇所を見ている学校が多い。グループで実施する際の「複数の目で見ることで危険に気付きやすく、職員間の危機管理の意識差が起こりにくい」という点で有効なことは認識しているものの「全員の都合を合わせることが困難」ということが、グループでの点検が行われない理由として挙げられた。また、異状時のみ記載している学校では、職員間の危機管理意識に温度差がまだ見られている。様々な校内事情があるため、郡市教頭会で安全点検の実施方法を一律にすることも難しい。そこで本年度の郡市教頭会では、従来の安全点検と児童生徒の安全教育を学校安全計画の両輪とするとともに、教職員の負担を軽減しながら危機管理意識を高める取組について研修を進めることとした。

２　課題解決のための取組

（１）　安全教育との連動と教職員の危機管理意識の向上を目指した安全点検の取組（令和６年９月実施）

郡市教頭会で、各校の安全管理に関わる取組について情報共有を図った。

Ａ中学校	安全教育の一環として教員の安全点検の他に、生徒会の委員会活動で校舎を点検している。職員とは違う視点で見ることで、生徒の活動実態に即した点検を行うことができた。
Ｂ小学校	安全教育の一環として定期的に清掃時間の５分間に児童による安全点検を行っている。この活動により清掃担当者が危機管理という点でも見ることができた。
Ｃ中学校	共有ドライブ内のスプレッドシートに職員が日常的に連絡事項や校地校舎のことを含めた様々な情報を発信し情報を共有している。
Ｄ中学校	安全点検の際に写真を撮ってもらい、安全点検後に職員に回覧し情報を共有している。
Ｅ中学校	全職員で行う通常の安全点検日の他に、分掌業務優先日を別途設定し、担当管理箇所の日常的な環境整備等の時間を確保している。どちらも日を設定して行うことで確実に実施することができた。
Ｆ小学校 Ｇ中学校	「管理記録簿」に修繕記録を蓄積し、施設管理の情報を一元化して迅速な対応を行えるようにしている。

令和６年３月、文部科学省が「学校における安全点検要領」を作成した。この中に、「児童生徒等の安全を確保するために、学校安全計画に基づき、安全管理（施設等の安全点検を含む）と安全教育を両輪とした一体的な取組を進めることが必要……」と示されている。Ａ中学校やＢ小学校の取組は、この安全教育の一環として児童生徒自身が安全点検を行うことで、どんなときに事故が起きやすいかを学ぶとともに事故の未然防止の意識の向上を目指している。また、この取組を通して、担当職員の安全に対する意識を高めることにもつながっている。今後は学校行事前などに児童生徒が教職員とともに利用箇所などを中心に安全点検を行うことで、安全教育の効果や教職員の危機管理意識をよりいっそう高めることができると考える。

Ｃ中学校とＤ中学校では、「職員間の情報の共有」や「見える化」に取り組んでいる。職員間で学校施設に関する情報を共有することで、教職員の危機意識の向上を図ることができている。また、安全点検を兼ねての写真撮影や気付いたことの入力なども、教職員の負担軽減につながっている。また、Ｅ中学校のように環境整備日を設定することで、確実に担当箇所を点検する時間を確保している。

Ｆ小学校やＧ中学校では「管理記録簿」に各施設の状況や留意事項、修繕が必要な箇所の写真や対応した業者の見積書などの情報を一元化している。これにより、修繕が必要な場合に素早く業者対応ができている。また、教頭が代わった際にも円滑に情報を引き継ぐことができる。

（２）校舎の小火から学んだ安全管理（令和５年９月、令和６年９月実施）

令和５年５月に郡市内の学校で小火が発生した。水槽ポンプのコンセントから熱が発生したことが原因だと考えられている。このことについては、郡市教頭会だけでなく、郡市校長会や教育委員会とも情報を共有し、各校で電気製品の点検と火災防止のための方策について話し合った。このことを基に、現在「新しく購入した物品に対しては購入年月を記入」「見回りの際には、毎回水槽のモーターを手で触り、熱くなっていないか確認」「老朽化している電化製品の廃棄」「コンセント周りの埃取りを学期末に掃除の重点箇所にする」「週末にはコンセントを抜く」などの取組を各校で実施している。また、できるだけ教頭だけでなく管理担当者や清掃担当者にも関わらせることで、当事者意識の向上を図っている。

（３）連携を図るための効果的な研修

教頭会・共同実施合同研修会（令和５年８月実施）

教頭会・共同実施合同研修会を開催し、各教育委員会の方々にもご参加いただき、「学校財務とのつながりを考えた安全点検の有効な実施方法」について意見交換を行った。

「安全点検の結果を予算要求に繋げていく。」「財務と絡めて、教職員の意識を高めるための研修が必要」 「事務職員など様々な職種や、学校運営協議会などの学校外の人も交えて安全点検をする。」 「教育委員会への修繕の依頼は、写真を付けると分かりやすい。」

今回、事務職員や各教育委員会それぞれの立場で「安全点検」について話し合ったことで、財務と修繕の関係について考えることができた。現在、村上市の財政健全化見直し期間の初年度である。危険性の高いものは緊急性をもって対応していかなければならないが、限られた予算の中でいかに効果的に修繕を進めていくかを考える場となった。

３　成果と今後の課題

【成果】

・郡市教頭会で「安全点検」をテーマに３年間研修を進め、学校や職員の実態に応じて見直しを図ることができた。「職員間の情報の共有」や「見える化」についても各校で継続して取り組んでいく必要がある。

【課題】

・定期的な安全点検だけでは事故は防げない。児童生徒等の安全を確保するための安全教育との一体的な取組が必要である。

【協議してほしいこと】

①　自校の安全教育について ②　自校で実践している「安全点検」の取組や実践したいと考える取組

ふるさと阿賀野市への誇りや愛着をもつ児童生徒を育む地域連携のあり方
～持続可能な地域連携を目指す組織づくりにおける教頭の役割～

阿賀野市小・中学校教頭会　阿賀野市立堀越小学校　平井　涼

１　課題

阿賀野市教育委員会は、阿賀野市教育振興基本計画の基本方針Ⅲで「地域協働による活動の推進」を示し、学校を拠点とした活力あるコミュニティが形成されるよう「地域と学校の連携」を促している。

現在、阿賀野市では、地域と学校の協働体制を構築するために「地域と学校の連携を推進する会」を各校で組織し、令和２年度から運用をスタートした。

阿賀野市小・中学校教頭会は、令和５年度より「ふるさと阿賀野市への誇りや愛着をもつ児童生徒を育む地域連携のあり方」をテーマに研修・取組を進めてきた。昨年度は、「持続可能な地域連携を目指す組織づくりを行ううえでの教頭が果たす役割」を副題として本研究大会で実践を紹介する機会を得た。その中で教頭および職員が変わっても「持続可能な地域連携」を行うにはどうしたらよいかが各校の課題であることがわかった。今年度は、令和５年度実践の成果と課題を踏まえた継続研究について紹介する。

２　課題解決の取組

(1)　前年度実践の成果をふまえた教頭としての取組の充実

組織や活動を意図的につなぎ、持続可能な活動へ発展

①　笹神中学校区　→「地域連携の働きかけ」を視点に

ア　地域連携を進める組織「子どもも大人も育ち合い共に地域を創る会」の取組

教頭は、笹神中学校の「地域と学校の連携を推進する会（ともつく会）」の事務局を担った。ともつく会が中心となってＰＴＡ、地域のＮＰＯ法人と連携した「映画上映」や「子どもが作る弁当の日」の実施において、小学校への案内等による情報提供や当日の運営などの渉外を担った。

イ　小中連携を中心として地域を巻き込んだ生活改善に向けた取組

教頭は、笹神中学校区三校保健部会に参加し、学校医や各ＰＴＡ役員と現状や課題を共有し、生活向上に向けた「パワーアップキャンペーン」の指導、助言を行った。また、小中連携の「絆ミーティング」では、良質な睡眠をテーマに外部講師との連絡調整や小学校との日程調整などの渉外を行った。それぞれの活動の様子を、ホームページやたより等で地域に発信するよう小中学校の情報担当職員に働きかけた。

ウ　阿賀野市のよさや特産品を発信する取組

修学旅行において、現地で阿賀野市のよさや特産品を紹介したり、販売したりする活動を取り入れた。活動に向けて、教頭は、地元の道の駅や旅行会社と連携し、日程や会場の調整等などの渉外を担った。校長の指示で引率者としても参加をし、当日は現地の商工会と連携しながら、生徒が地元に誇りや愛着がもてる活動となるよう働きかけた。

②　堀越小学校　→「組織改革へのかかわり」を視点に

ア　連携のさらなる充実に向けた「地域と学校の連携を推進する会（ほりこしの会）」の再編成

令和５年度に堀越小・分田小が統合した。統合前の両校の各地域には地域振興に取り組んでいる諸団体があり、それぞれの学校において教育活動を様々な面から支えていただいていた。教頭は、校長の指導の下、両校各地域における諸団体の代表の方の中からコーディネーター候補の選

出を行い、候補者に打診・了承を得るとともに、「ほりこしの会」の運営について検討・調整を図った。また、組織の再編成後の地域連携会議では、ファシリテーターとして地域連携等の方向性が明確になるよう意見のとりまとめ役を担った。

(2)　前年度実践の課題をふまえた令和６年度の教頭会としての取組

持続可能な地域連携を実現するために、市内全体の人材の情報を共有

①　「人材バンク」作成の意義

ア　市内小中各校の体験活動の核となる人とのかかわりの充実

→　各校の人材の偏り、人材不足の解消

イ　運営協議会並びに地域学校協働本部の移行を見据えた市教育行政（学校教育課、生涯学習課）との連携

・　「もの（施設等）・こと（プログラム）」にかかわる情報を保有している生涯学習課との情報共有による連携

・　「人材バンク」の活用・運営にかかわる教育行政からの指導、助言

→　地域連携の指導的立場の学校教育課との連携

②　「人材バンク」作成にかかわる教頭会としての取組

ア　学校教育課および生涯学習課に対する「人材バンク」の取組についての説明と協力の要請

イ　各校における地域人材のリストアップと「人材バンク」への登録作業の要請

ウ　各校で要請した地域人材情報の集約と「人材バンク」リストの作成

→　市内全学校および市教育行政がもつ地域人材に関する情報の共有

参考：神山小学校における「人材バンク」活用の実際

神山小学校では、学校の後援会が例年そば打ち体験の活動を企画、実施している。そば作りを指導できる地域の方に毎年講師をお願いしていたが、事情により今後は講師を引き受けられないという話があった。後援会をはじめとする地域では、児童が毎年楽しみにしているこの活動を継続させたいという強い思いがあった。そこで教頭が「人材バンク」を調べたところ、他校の地域にお願いできそうな方がいることが分かり、その方に講師を依頼した。

３　成果と今後の課題

(1)　成果

①　他校の先行実践を参考にしながら、持続可能な地域連携をテーマに自校の組織や活動について見直したり改善したりすることができた。

②　市教育行政と各校との間で、市内全体の「ひと・もの・こと」の情報を共有し、地域との連携を推進していくことについて共通理解できた。緩やかではあるが持続可能な地域連携を目指す組織づくりに向けた道筋が整いつつある。

(2)　課題

①　「人材バンク」への登録者数、登録人材が得意・専門とするカテゴリーが、現在のところ充実した状況とは言えない。今後どのようにして登録人材の充実を図っていくか。

②　地域人材の確保に向けた動きはできたが、実際に登録された人材を各校が活用する際にスムーズに手続きできる仕組みを検討していく必要がある。

●　協議してほしいこと

・　持続可能な地域との連携を充実・発展させていくために、教頭・教頭会としてどのように働き掛け、かかわっていけばよいか。（市教育行政及び市内小中学校担当者との連携等を重点に）

・　本発表のような人材リストを郡市内で活用しているところがあれば、その有効活用の方法、実際の成果や課題等があれば教えていただきたい。

第１分科会　課題番号２
分科会課題　　子供の発達に関する課題
提案者テーマ 地域のよさにふれ地域に働き掛ける児童生徒の育成
～地域とともに歩む学校づくりコミュニティ・スクールを活用して～

指導者	新潟県教育庁下越教育事務所学校支援第２課指導主事 小池　満喜子　　様	司会者	村上市立さんぽく小学校 伊藤　孝希
提案者	胎内市立乙中学校 畑山　倫和	記録者	村上市立山北中学校 村田　　健
支援者	胎内市立築地中学校 倉町　宏治		

ＮＯ	グループ	氏名	市町村名	学校名	備考
1	Free	畑山　倫和	胎内	乙中	提案者
2	Free	倉町　宏治	胎内	築地中	共同研究者
3	A	本保美帆子	村上・岩船	村上東	グループ協議司会
4	A	高橋　美紀	胎内	黒川小	
5	A	若杉　文健	新発田・北蒲	東豊小	グループ協議記録・発表
6	A	佐藤　香織	新発田・北蒲	加治川小	
7	A	山口　伸也	五泉・東蒲	五泉小	
8	A	鷲津　克幸	五泉・東蒲	三川中	
9	A	本保　逸彦	阿賀野	水原中	
10	B	鈴木　　勇	村上・岩船	粟島浦中	グループ協議司会
11	B	関　慎太郎	新発田・北蒲	豊浦小	グループ協議記録・発表
12	B	片野　一輝	新発田・北蒲	御免町小	
13	B	丹羽　　徹	新発田・北蒲	第一中	
14	B	伊與部紀幸	五泉・東蒲	五泉南小	
15	B	伊東　良枝	阿賀野	笹岡小	
16	C	村田　　健	村上・岩船	山北中	部会記録者
17	C	中村　克行	新発田・北蒲	七葉小	グループ協議司会
18	C	徳富　大吾	新発田・北蒲	川東小	
19	C	中野　貴弘	新発田・北蒲	七葉中	
20	C	渕田　　徹	五泉・東蒲	上川小	グループ協議記録・発表
21	C	柳　　憲一	阿賀野	安野小	
22	D	伊藤　孝希	村上・岩船	さんぽく小	部会司会者・グループ協議司会
23	D	佐野　亮太	新発田・北蒲	外ケ輪小	
24	D	小栗　　玲	新発田・北蒲	紫雲寺小	
25	D	加藤　雄志	五泉・東蒲	川東小	
26	D	金泉　　圭	五泉・東蒲	五泉北中	
27	D	石塚　晃一	阿賀野	安田中	グループ協議記録・発表

※いくつかのグループの記録者から発表していただきます。ご協力をお願いします。

第２分科会　課題番号３（１）
分科会課題　　施設・設備及び事務に関する課題
提案者テーマ 学校における安全管理に関わる取組
～教職員の危機管理意識の向上を目指した効果的な安全点検～

指導者	村上市教育委員会 学校教育課管理主事 仙田　　満　様	司会者	村上市立村上第一中学校 田島　隆之
提案者	村上市立神納小学校 貝沼　史弘	記録者	県立村上特別支援学校 田中　雅広
支援者	村上市立保内小学校 小野　浩由		

ＮＯ	グループ	氏名	市町村名	学校名	備考
1	Free	貝沼　史弘	村上・岩船	神納小	提案者
2	Free	小野　浩由	村上・岩船	保内小	共同研究者
3	E	田島　隆之	村上・岩船	村上第一中	部会司会者・グループ協議司会
4	E	高橋　秀明	胎内	黒川中	
5	E	八木　克洋	新発田・北蒲	川東中	グループ協議記録・発表
6	E	髙山　雄一	新発田・北蒲	猿橋中	
7	E	波田野伸樹	五泉・東蒲	愛宕小	
8	E	杉山　順二	五泉・東蒲	三川小	
9	F	大滝　英俊	村上・岩船	小川小	グループ協議司会
10	F	菊地　清勝	新発田・北蒲	本丸中	グループ協議記録・発表
11	F	相澤　勇弥	新発田・北蒲	佐々木小	
12	F	清野　正康	新発田・北蒲	豊浦中	
13	F	荻野　伸也	五泉・東蒲	橋田小	
14	F	冨樫　　晃	阿賀野	安田小	
15	G	田中　雅広	村上・岩船	村上特支	部会記録者
16	G	嵐　　直人	胎内	胎内小	
17	G	金子康太郎	新発田・北蒲	猿橋小	
18	G	上村　進一	新発田・北蒲	米子小	
19	G	廣澤　正文	新発田・北蒲	加治川中	
20	G	松田　祐介	五泉・東蒲	村松桜中	グループ協議記録・発表
21	G	大山　聡子	阿賀野	神山小	グループ協議司会
22	H	網代　鋼一	胎内	中条小	グループ協議司会
23	H	齋藤　　忍	新発田・北蒲	二葉小	
24	H	本保真由美	新発田・北蒲	蓮野小	
25	H	菊池　直和	五泉・東蒲	五泉東小	
26	H	今井　奈奈	五泉・東蒲	五泉中	
27	H	渡部　　厚	阿賀野	京ヶ瀬中	グループ協議記録・発表

※いくつかのグループの記録者から発表していただきます。ご協力をお願いします。

第３分科会　課題番号４
分科会課題　　組織・運営に関する課題
提案者テーマ 地域と連携するための組織づくり
～持続可能な地域連携を目指して～

指導者	新潟県教育庁下越教育事務所 学校支援第２課指導主事 鈴木　淳　様	司会者	県立村上中等教育学校 青山　　亮
提案者	阿賀野市立堀越小学校 平井　　涼	記録者	村上市立荒川中学校 山本　　亘
支援者	阿賀野市立笹神中学校 恩田　徹也		

ＮＯ	グループ	氏名	市町村名	学校名	備考
1	Free	平井　　涼	阿賀野	堀越小	提案者
2	Free	恩田　徹也	阿賀野	笹神中	共同研究者
3	I	青山　　亮	村上・岩船	村上中等	部会司会者・グループ協議司会
4	I	丸山　　温	胎内	中条中	
5	I	渡邉　正樹	新発田・北蒲	東小	
6	I	五十嵐敦志	新発田・北蒲	藤塚小	グループ協議記録・発表
7	I	佐々木綾子	新発田・北蒲	聖籠中	
8	I	渡邉　正則	五泉・東蒲	阿賀津川中	
9	I	大石　康範	阿賀野	京ヶ瀬小	
10	J	山本　　亘	村上・岩船	荒川中	部会記録者
11	J	中野　史子	胎内	きのと小	
12	J	山田絵美子	新発田・北蒲	佐々木中	グループ協議記録・発表
13	J	細谷　賢吾	新発田・北蒲	亀代小	
14	J	湯浅　　要	五泉・東蒲	大蒲原小	グループ協議司会
15	J	渡部　武志	五泉・東蒲	巣本小	
16	K	加藤　　僚	村上・岩船	岩船小	グループ協議司会
17	K	宮川　和久	胎内	築地小	グループ協議記録・発表
18	K	臼井　政之	新発田・北蒲	住吉小	
19	K	長谷川直紀	新発田・北蒲	東中	
20	K	長谷川　覚	五泉・東蒲	村松小	
21	K	齋藤　大祐	五泉・東蒲	津川小	
22	L	星　　邦央	村上・岩船	粟島浦小	グループ協議司会
23	L	脇川　恭子	新発田・北蒲	猿橋小	
24	L	小野　俊巳	新発田・北蒲	山倉小	
25	L	小出　祐一	新発田・北蒲	紫雲寺中	
26	L	鈴木　隆士	五泉・東蒲	川東中	グループ協議記録・発表
27	L	鈴木　智博	阿賀野	水原小	

※いくつかのグループの記録者から発表していただきます。ご協力をお願いします。

令和６年度第６０回新潟県小中学校教頭会研究大会
第１５回下越Ｂブロック研究大会

役員一覧

実行委員会

実行委員長	中山　久司	（村上市立神林中学校）
副実行委員長	川上　直樹	（村上市立平林小学校）
実行委員	松岡　　誠	（村上市立村上南小学校）
実行委員	小林　朋恵	（村上市立山辺里小学校）
実行委員	前田　　哲	（村上市立金屋小学校）
実行委員	石田　博史	（関川村立関川小学校）
実行委員	金子　　浩	（関川村立関川中学校）
実行委員	川嶋　邦夫	（村上市立瀬波小学校）
事務局	星野　勝紀	（村上市立岩船中学校）
会計	小野　理恵	（村上市立朝日さくら小学校）
会計	小柳　正樹	（村上市立朝日みどり小学校）

研修部

部長	松岡　　誠	（村上市立村上南小学校）		
副部長	小林　朋恵	（村上市立山辺里小学校）		
部員	星　　邦央	（粟島浦村立粟島浦小学校）	伊藤　孝希	（村上市立さんぽく小学校）
	小野　浩由	（村上市立保内小学校）	村田　　健	（村上市立山北中学校）
	鈴木　　勇	（粟島浦村立粟島浦中学校）	田島　隆之	（村上市立村上第一中学校）
	青山　　亮	（県立村上中等教育学校）	田中　雅広	（県立村上特別支援学校）
	山本　　亘	（村上市立荒川中学校）	貝沼　史弘	（村上市立神納小学校）

庶務部

部長	前田　　哲	（村上市立金屋小学校）		
副部長	石田　博史	（関川村立関川小学校）		
部員	大滝　英俊	（村上市立小川小学校）	加藤　　僚	（村上市立岩船小学校）
	本保美帆子	（村上市立村上東中学校）		

設営部

部長	金子　　浩	（関川村立関川中学校）		
副部長	川嶋　邦夫	（村上市立瀬波小学校）		
部員	齋藤　　望	（村上市立朝日中学校）	佐久間隆司	（村上市立村上小学校）
	小柳　正樹	（村上市立朝日みどり小学校）		

第60回新潟県小中学校教頭会研究大会

大　会　宣　言

急速に変化し、将来の予測が難しいこれからの社会を生きる子どもたちには、多様性を受容する思いやり、自ら考え判断し行動する力、他者と協働しながら新しいものを生み出していく創造性が求められています。そして、厳しい挑戦の時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもち自立した人間として、未来を切り拓く力をもった子どもを育むことは重要です。

本研究大会では、第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む　魅力ある学校づくり」（キーワード　自立・協働・創造）のもと、「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」（２年次研究）をサブテーマに掲げ、直面する教育諸課題の解決を目指してきました。

また、「研究の継続性による成果と課題の焦点化」、「研究の協働性の充実」、「教頭の関与性の明確化」の３つを研究の柱として、教頭の在り方を明らかにしてきました。

私たちは、教頭としての職責の重大さを改めて自覚し、やがて社会の創り手となる子どもたちが、自ら考えて行動し、他者と協働しながら課題を乗り越え、新たな価値を創造しながら未来を拓く力を育んでいくことができる魅力ある学校づくりに努めていかなければなりません。

ここに会員の総力を結集し、次の事項の実現に教頭として全力を尽くすことを、第60回新潟県小中学校教頭会研究大会の総意をもって宣言します。

決　　議

１　信頼に応える学校づくりに資する教育課程の編成・実施・改善

２　主体的に学び、たくましく生き抜く児童生徒を育む学校づくり

３　魅力ある学校づくりを支える教育環境整備の推進

４　組織マネジメントを生かした学校運営の活性化

５　教職員の資質向上、職務意識の高揚を図る校内体制づくり

令和６年10月30日

第60回新潟県小中学校教頭会研究大会